

「見える」を実現するピュアリフレクトミラー

医療法人志庵 にしお歯科・矯正歯科クリニック
(静岡県浜松市)

D-WESTAIL 合同会社 インストラクター
歯科衛生士 **山下 紗季**



臨床において重要なことの一つは、「見える」状態の確保だと考えている。

この「見える」を実現するためには、①拡大鏡 ②拡大鏡用ライト ③「表面反射かつ高反射率のミラー」が欠かせない。特に拡大鏡の使用時は倍率が上がるほど視野が暗くなる。そのため拡大鏡用ライトに加えて高反射率のミラーはかなり重要である。

これら3点を使用するようになってから、これまで暗さなどで見逃していたプラークや歯石の取り残しに気づけるようになった。今回は、私が愛用している高反射率ミラー「ピュアリフレクトミラー」について紹介する。

ピュアリフレクトミラーを愛用している最大の理由は、表面反射かつ95%以上という高い反射率にある。

表面反射でないミラーはゴースト（基板内部・裏面反射による微弱な二重像）が映ってしまい、ミラー像が二重に見える。また反射率が低いと暗く見える。

しかし、本ミラーでは実像に近い明るさで観察することができる。特に、最後臼歯の遠心まで明るく視認できたことには大きな驚きがあった。



表面反射によりゴーストがなく鮮明に見える



染め出し後、プラーク・歯石除去前の下顎前歯部



最後臼歯遠心まで明るく見える

最後臼歯の遠心は、多くの歯科衛生士が苦手意識を持ちやすい部位である。手技的な難しさに加え、暗くて見えにくい点もその一因だろう。私自身、この見えにくさをピュアリフレクトミラーによって改善できたため、同じ悩みを持つ歯科衛生士にとって新たな気づきにつながる可能性がある。

また、ミラートップに対して鏡面が広い点も大きな特徴である。狭い口腔内を観察する際には、ミラートップは小さく、かつ鏡面が広いことが理想的だ。ピュアリフレクトミラーは、縁までしっかりと鏡面が確保されており、臨床での使いやすさを感じている。



ミラートップに対して鏡面が広く、縁が細い

さらに、ミラートップ背面と柄の接合部が薄く段差が少ない点も、愛用している理由の一つだ。ミラー背面は粘膜に触れる機会が多く、凹凸があると患者の不快感につながりやすい。患者への配慮という点からも、このような細やかな設計は重要である。



ミラートップ背面と柄の接合部が薄く段差が少ない

最後に、小さな「見える」の積み重ねが、患者の口腔内を守り、ひいてはその後の人生に影響を与えることもあるだろう。このような意識を持って臨床に向き合う歯科衛生士が増えることを願っている。